

令和5年度 志津川自然の家主催事業

# 「サマー・チャレンジin南三陸」

初日の8月1日（火）に4倍以上の応募者の中から抽選にて当選した30人が集まり、8月6日（日）まで5泊6日の「サマー・チャレンジin南三陸」を行いました。

期間中は、連日、熱中症警戒アラートが発表されるほどの厳しい暑さとなりましたが、プログラムを入れ替えるなどの工夫をしながら活動しました。無人島探検やいかだ遊び、バナナボート、流しそうめん、星座観察、田束山登山など、どの活動を取っても、参加者一人一人が全力でチャレンジし、全力で楽しみ、笑顔あふれる姿がありました。

最終日、活動支援員に感謝の気持ちを伝える会では、貴重な出会いに感謝するとともに、涙を流しながら別れを惜しむ姿が見られました。6日間の締めくくりに相応しい、充実感にあふれた、心温まる時間となりました。

## 第1日 8月1日（火）



開講式



開講式（代表挨拶）



MAP（自己紹介）



MAP（アイスブレイク）



旗作り



タベのつどい

1日目は、初日ということもあり、開講式では少し緊張した様子でした。

午後からMAP（みやぎアドベンチャープログラム）を行い、お互いを知り、心がほぐれてくると、あっという間に打ち解け、仲良くなり、表情が明るくなりました。

午後の後半には、班ごとに旗作りをしました。この6日間のめあてやチャレンジに向けて、意欲をもつことができました。

## 第2日 8月2日(火)



水慣れ&シュノーケリング練習



写真立て用の貝殻集め



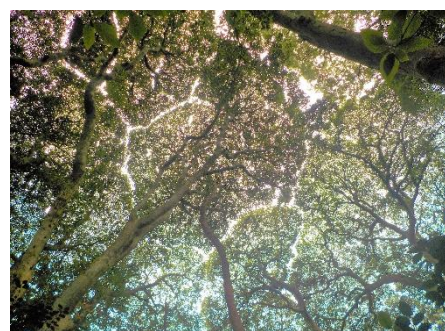
泳いで無人島に上陸



島周りをシュノーケリング



無人島探検



無人島のタブの木



流しそうめん用の竹器作り



班活動(振り返り)

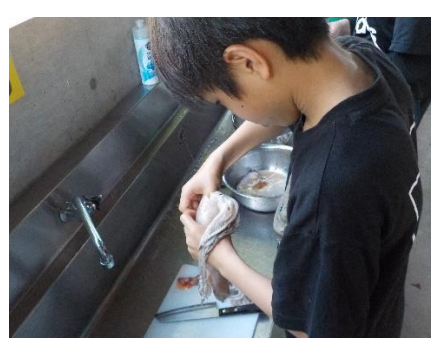
2日目は、楽しみにしていた無人島(樅島)に上陸の日。不安でいっぱいでしたが、午前中に水慣れやシュノーケリング練習をして準備万端。午後には、いざ船から飛び込み出すと班の仲間と励まし合いながら、無人島まで元気に泳ぎきることができました。島の探検では、タブの木の葉の間から陽射しが注ぎ込むきれいな様子も見られました。

夜は、流しそうめん用に一人一人が竹を切って、竹の器を作りました。

## 第3日 8月3日(水)



魚市場見学



いかの胴抜き体験



いかだ遊び

バナナボート



バナナボート

流しそうめん用の竹箸作り

3日目は、早朝から志津川の魚市場に行き、漁船の入港の様子や本物のせりの様子を見学しました。その後、イカの胴抜きにチャレンジしました。午後からは班ごとにいかだを作って海原へ出航！どの班も無事にゴールすることができました。バナナボートでは絶叫しながら志津川湾を駆け抜けました！夜は竹箸を作りました。昨日の竹器とセットで流しそうめんに使います。

## 第4日 8月4日(金)



貝殻を使ってフォトフレーム作り



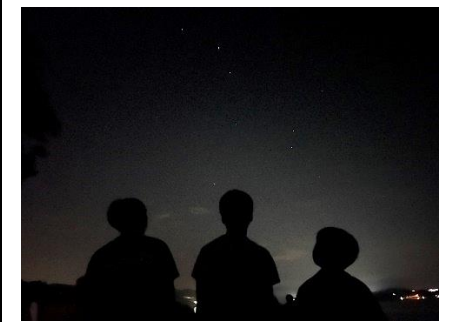
流しそうめん



看護師さんへの感謝

タベのつどい

食堂でカレーライス



星空観察

4日目に予定していたテント泊と野外炊飯は、熱中症アラート発令のため中止しました。その代わりに、プログラムを変更して、午前中は、2日目に自分で拾った貝殻を使ってフォトフレームを作りました。最終日に集合写真を入れて、お土産に持ち帰る予定です。お昼は、自分で作った竹器と竹箸を使って、流しそうめんを楽しみました。夜は気仙沼天文研究室の講師をお招きして、満天の星空を観察しました。幸運なことに土星も見ることができました。

## 第5日 8月5日(土)



田束山登山



田束山登山



集合写真(田束山の山頂、弘川ダム)



感謝の会の準備

5日目は、朝から田束山へ向かいました。厳しい暑さの中の登山となりましたが、沢の水で体を冷やしたり、仲間を気遣いながら声を掛け合ったりして、全員で山頂にたどり着くことができました。登山を通して、班の絆がより一層深まりました。

明日が最終日となりました。夜は、明日の感謝の会に向けて、想いを込めてメッセージカードの準備をしました。

## 第6日 8月6日(日)



感謝の会



感謝の会



振り返りムービー



閉講式



閉講式(代表挨拶)

6日目は、最終日ということで、感謝の会を開き、学生支援員さんや看護師さんに一人一人が自分の言葉で感謝の気持ちを伝えました。

また、この6日間をまとめた写真のスライドショーで、みんなのたくさんのチャレンジと楽しかった思い出を振り返りました。感謝の会は、たくさんの涙と笑顔があふれる時間となりました。

6日間の素敵な時間と空間を共にした仲間の皆さん、どうかこれからもチャレンジし続けてください！

広い世界で偶然出会った、この奇跡と縁を大切に、いつまでも語り合える仲間であってほしいと願っています。